

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会

2023 年度第 4 回理事会 議事録

1. 日時

2024 年 7 月 10 日(水)13:00~15:50

2. 場所

福岡国際会議場

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事 19 名、欠席理事 1 名

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:赤木禎治、犬塚亮、岩本眞理、大内秀雄、落合由恵、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、金成海、
鈴木孝明、須田憲治、豊野学朋、中野俊秀、瀧間浄宏、星合美奈子、増谷聡、三谷義英

欠席理事:檜垣高史

出席監事:河田政明、土井庄三郎

欠席監事:市田露子

出席幹事:津村早苗、永井礼子

欠席幹事:青木雅子、中川直美

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として、小野理事と笠原理事が選任された。

6. 前回議事録の確認…………… 資料 1p.1

前回議事録への異議はなし。

7. 審議事項:

第 1 号議案:2023 年度決算案および監査報告 (財務・城戸理事、河田監事)・・資料 2p.18

提案内容: 2023 年度決算案について、資料に沿って報告された。海外招請など海外との交流再開および円安によって支出が予算よりも大幅に増加したのが赤字決算の大きな要因となったが、学会

活動の活性化と考える。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 2 号議案: 2024 年度予算案について (財務・城戸理事) ……資料 2p.25

提案内容: 2024 年度の予算案について資料に沿って説明された。会費収入に関して、医師の納入率はよい。多領域会員や賛助会員の増加による収入増を期待したい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 3 号議案: 課題 B 審査結果について (学術・犬塚理事) ……資料 2p.27

提案内容: 2024 年度新規応募研究課題 B (研究責任者: 石田秀和先生 <大阪大学大学院医学系研究科小児科学>) について説明された。課題 B を随時募集にしたため、すでに学術委員会では審査、承認済みである。理事会承認のため審議。

議決結果: 賛成多数で承認された。

第 4 号議案: 課題研究委員会年次報告について (学術・犬塚理事) ……資料 2p.42

提案内容: 2023 年の研究課題 (A: 3 題と B: 8 題) の年次報告書が提出された。学会総会の研究委員会セッションで報告会が行われる。報告書について理事会承認のため審議。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 5 号議案: 専門医制度の規約の改訂 規則・細則・付則 (専門医・増谷理事) ……資料 2p.71

第 6 号議案: 新制度の規約の制定付則について (専門医・増谷理事) ……資料 2p.90

提案内容: 専門医機構認定に向けて、日本小児科学会の専門医制度移行と同様に実施できるよう、規約 (規則・細則・付則) を改訂したい。HP 上の記載も改訂したい。

議決結果: 第 5 議案、第 6 議案合わせて全員一致で承認された。

第 7 号議案: 現行制度と新制度の移行スケジュールについて (専門医・増谷理事) 資料 2p.73

第 8 号議案: 名誉認定医の制度と規約について (専門医・増谷理事) ……資料 2p.110

提案内容: 専門医機構認定に向けての移行スケジュールについて説明された。日本小児科学会専門医の専攻医期間と、小児循環器専攻医との重複 (連動研修) は認めない予定である。現在日本専門医機構の審査中であり確定ではないが、2027 年に初めて機構認定専門医が認定されるのではと見込んでいる。

機構認定の専門医では、基本領域として小児科専門医のみとする 2 階建てとなるため、外科医で小児循環器専門医を持っている者は日本専門医機構の専門医として更新ができなくなる。外科医および年配のため機構専門医の認定を受けられない場合の救済処置として、「日本小児循環器学会名誉認定医 (仮称)」の制度を計画したい。(機構認定の専門医制度に入るため、専門医の名称は使えない。)

議決結果: 第 7 議案は賛成多数で承認された。第 8 議案については方向性が賛成多数で承認されたが、第 8 議案については下記の条件が付記された。

第 8 議案についての議論を以下にまとめる。

提議内容: 名誉認定医の条件が「小児循環器専門医を 3 回以上更新したもの、あるいは 60 歳で小児循環器専門医を有しているもの」との提案であるが、3 回更新では最短 49 歳で名誉認定医を取得できることになり、「名誉」認定医としては若すぎる。また、「名誉専門医」という名称は「名誉会員」と混同する恐れがあり、検討が必要である。

上記に対する説明: 「名誉認定医」の名称と条件については継続的に検討し、再度理事会に諮る。

第 9 号議案: 地方会等認定委員会の名称変更について (専門医・増谷理事) ・ 資料 2p.114

第 10 号議案: 地方会規則・細則・施行細則の改訂、研修集会施行細則の制定 (専門医・増谷理事)
..... 資料 2p.115

提案内容: 機構認定に向け、分科会以外に専門医単位を取得できる現在の集会を「地方会等」という名称から「地方会・研修集会」に改訂し、「研修集会」を明確に定義して規則を改訂・制定する。

議決結果: 第 9 議案、第 10 議案合わせて賛成多数で承認された。

第 11 号議案: 小児重症心不全相談窓口への紹介症例の実態調査について (移植・笠原理事) 資料 2p.124

提案内容: 窓口への紹介症例の情報を利用した研究で、福嶋移植委員長が研究責任者となる。

議決結果: 全員一致で承認された。(下記の条件が付記された。)

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容: 倫理委員会はどうするか。窓口へ提出される記入フォーム内の情報を利用するだけであれば中央一括審査でよいと思われるが、診療記録を用いるのであれば、各施設の倫理委員会審査が必要となる。研究課題 B に申請し、学会倫理委員会でも審査する形がよいのではないか。

上記に対する説明: 研究推進のために研究内容を明確化し、倫理審査について、各施設の個別審査もしくは中央一括審査かをはっきりさせる。それと同時に小児循環器学会の研究課題 B に申請し、学会倫理委員会審査を含め推進する。

第 12 号議案: 新しいカテーテル治療のあり方 WG 委員追加について (保険診療・金理事) 資料 2p.127

提案内容: 新規メンバーを 2 名 (富山大学小児科・伊吹圭二郎先生、大阪市立総合医療センター・藤野光洋先生) 追加する。

議決結果: 賛成多数で承認された。

第 13 号議案: 評議員に対する雑誌投稿義務について (編集・大内理事) 資料 2p.128

提案内容: 論文投稿数を増やすために、評議員の新規申請および更新の条件に学会雑誌への論文投稿を盛り込みたい。英文雑誌の表紙を改訂したい (約 7 万円)。

議決結果: 賛成多数で承認された。(英文雑誌の表紙改訂の経費については、すでに計上されている学術誌委員会の英文誌用の予算から捻出することを前提とする。)

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容:

- ① 5年間で1編は、特に外科系の評議員にはハードルが高いのではないか。
- ② 今後、PubMed 収載やインパクトファクター取得を目指すのであれば、掲載論文を質の高いものに厳選する必要がある。

上記に対する説明:

- ① 評議員新規申請の場合は申請前 5 年以内で筆頭あるいは責任著者として掲載されている必要があるが、更新の場合は共著者でよいので、そこまでハードルは高くないと考えられる。現在、評議員の人数が十分数に達しており、新規申請において条件を厳しくするのは妥当と思われる。
- ② 現在の和文誌には case report(和文+英文)をまとめて、英文誌には(質の高い)原著、総説論文だけを載せるのも一つの方法である。英文誌には case report を載せず、委員会・分科会からの年次報告(統計的報告)(原著の扱いにしない)も掲載する働きかけを開始している。

第 14 号議案:利益相反自己申告書の提出方法について(利益相反・鈴木理事)資料 2p.150

提案内容:COI 申告書のオンライン化について、費用対効果や継続性の点から企業委託は見送り、学会が保有している dropbox を利用する。新たに発生する費用はなく、メリットが大きい。

議決結果:賛成多数で承認された。

第 15 号議案:COVID-19 対策特別チーム解散について(未来予想図・山岸理事長)資料 2p.151

提案内容:COVID-19 の 5 類感染症移行に伴い、また、患者・家族からの要望・問い合わせ等もなくなってきたことをふまえ、特別チームを解散する。これまでのご尽力に感謝する。

議決結果:全員一致で承認された。

第 16 号議案:学会 HP のリニューアルについて(未来予想図・山岸理事長)資料 2p.152

提案内容:学会 HP リニューアルについて、広報委員会の現在の人員数では困難。ワーキンググループを発足して委員を増やして検討したい。

議決結果:全員一致で承認された。

8. 報告事項:

・理事長報告..... 資料 3p.145

1. 持ち回り理事会報告

・特定用途医薬品(マシテンタン)の開発提案に対する学会見解について
全会一致で承認された。

・日本心臓血管外科手術データベース機構(JCVSD)の法人化について
全会一致で承認された。

2. 要望書等提出状況

特になし

3. 関連学会委員推薦

以下の各先生を推薦した。

- ・心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会:鈴木孝明、坂口平馬
- ・小児科学会用語委員会:豊野学朋
- ・小児科学会小児慢性疾病委員会:城戸佐知子
- ・小児科学会移行支援委員会:城戸佐知子

・会長報告

1. 第 60 回学術集会開催報告(須田憲治会長)……………資料 4p.183

事前参加登録を 1,500 名強からいただいている。座長などの業務についてお手数をおかけするが、学術集会を盛り上げていただければと思う。

2. 第 61 回学術集会準備報告(三谷義英会長)

会期は 2025 年 7 月 10-12 日。三重へのアクセスは意外と良好。三重の食べ物や飲み物などのホスピタリティも鋭意準備中。ホームページは来週中盤に掲載予定。(津市のみではホテルが足りないのでは?との質問あり)津市だけではなく、四日市や松阪市などのホテルも想定していただければと考えている。学術集会としてもホテルを確保する、シャトルバスを出すなどの対応を計画している。

3. 第 62 回学術集会準備報告(山岸敬幸会長)

会期は 2026 年 7 月 9-11 日。東京で開催。テーマは「Academic for Social ～みんなの笑顔のために～」。

4. 第 63 回学術集会準備報告(笠原真悟会長)

会期は2027年 6 月 24-26 日。軽井沢プリンスホテルウエストで開催。付近の観光施設としての万平ホテルも全面リニューアルオープンしているはずで、学会のみならず、参加者の皆様に初夏の軽井沢を満喫してほしい。宿泊施設はお高めのホテルが多いが、コテージを利用する、上田市、高崎市などから通うなどの方法もある。

・各エリア委員会報告

● 学術エリア 主・犬塚理事、副・豊野理事、中野理事 ……………資料 5p.188

女子医大心臓標本デジタルアーカイブ資料化および活用方法についての検討をすすめている。機構認定専門医への移行後の専門医更新に必要となる e-learning システムの構築についてもすすめている。

Joint session について、最終企画決定までのプロセスや連絡経路が複雑になっており、今後整理を行っていくこととしている。

ガイドライン委員会の横山詩子先生が、日本循環器学会のガイドライン委員会にも参画

することになり、今後さらにやりとりがスムーズになることが期待される。

- 渉外エリア 主・三谷理事、副・赤木理事 …………… 資料 5p.224
AHA(Young Hearts)との Joint Session、交換留学、AEPC との Joint Session、交換留学(YIEP)の状況について報告。WCPCCS2025 について、presentation award を設定し、3 名に渡航費を補助する方針としている。WCPCCS ではぜひ、日本の存在感を示したい。若手の先生方にぜひ応募していただきたい。
- 次世代エリア 主・中野理事、瀧間理事、副・岩本理事、落合理事 資料 5p.229
次世代育成委員会として「提言」を実現するため、地域拠点化小委員会、育成プログラム小委員会の活動を行っている。あけみちゃん基金からの助成について、①育成プログラム運営経費、②育成プログラム登録管理システム構築費、③小児心臓外科ハンズオン開催費用、④小児心臓外科ウインタースクール開催費用が承認された。5 年間継続で、延長もありうることとなっている。小児循環器外科の施設集約化シミュレーションをすすめている。
地域拠点化に国からの理解と援助を受けるところを目的とし、厚労省担当官とのつながりを維持し、今回の学術集会のシンポジウムでも登壇いただくこととしている。
地域拠点化小委員会としては、小児循環器学会、心臓血管外科学会、胸部外科学会 3 学会の小児心臓外科系理事の協力の下、グループ分け、議長役担当理事、コアメンバーを決定、地域グループミーティングの事前ミーティングを各地域で実施している。
今後、各地域のグループミーティングに進める予定。
今回の学術集会で、ダイバーシティ時代の小児循環器医療のあり方をテーマに討議を行うこととしている。
多領域専門職委員会からは、今回の学術集会でパネルディスカッションを 3 セッション行うこととしている。論文投稿支援も行っている。多領域専門職委員会から、評議員会をハイブリッド開催にしてほしいとの要望あり。→ 本件については評議員会で意見をうかがうこととなった。
- 専門医制度エリア 主・増谷理事、副・星合理事 …………… 資料 5p.260
専門医試験は今年から筆記試験、面接を 1 日のみで実施する日程に戻している。試験問題のプール問題を活用できる方法論を検討している。新しいカリキュラムを制定して整備基準と併せて専門医機構に提出した。
- 学会誌エリア 主・大内理事、副・須田理事 …………… 資料 5p.266
論文数が少なく、特集企画を充実させることで対応する方針。英文論文作成のコツに

ついて講演をしていただく予定。YIA 候補の先生方にも自身の経験について紹介していただく。本学術集会では、東北大学 大隅典子先生にオープンサイエンス時代における医学論文と情報の発信等についてご講演いただく予定。

- 社会制度エリア 主・笠原理事、檜垣理事、副・城戸理事、鈴木理事資料 5p.271
引き続き移植医療の推進を行っていく。埼玉医大国際医療センターが小児心臓移植施設として認定され、2 例実施している。
2025 年 12 月に京都で国際臓器提供学会(ISODP2025)が開催される予定。
ドクタージェットプロジェクトの進捗状況とクラウドファンディング第 2 弾について、評議員会で福嶋先生からお話いただく予定。
本学術集会でも市民公開講座で PUSH 講習会を行う予定。
学校心臓検診の地域間格差の問題が続いている。本学術集会で、学校心臓検診に関する提言を発表する予定。
自立支援事業が各自治体で活性化してきている。
- 保険診療/臨床試験エリア 主・金理事、副・小野理事 …………… 資料 5p.293
保険収載の提案について、テーマがあればお知らせいただきたい。ガイドラインに掲載されていないと門前払いにされる。現在作成が進行している心不全治療ガイドラインに、ぜひさまざまなエビデンスを掲載いただきたい。
シンフォリウムについては本学術集会のタウンホールミーティング、ランチオンセミナーで紹介する予定。
マシテンタン・セレキシパグ・トルバプタンの症例登録が終了、シンフォリウムの治験は終了し上市后 PMS 登録開始、バクスター癒着防止剤が症例登録中である。
不整脈材料機器委員会で、MRI 対応心外膜リードの導入などについて検討している。
TPVI 既に 180 例以上が実施されている。TPVI レジストリの継続運用と品質管理方針について検討が行われている。
HBD for Children 活動について、本学術集会でタウンホールミーティングが行われる予定。
- 医療安全・倫理エリア 主・鈴木理事、副・瀧間理事…………… 資料 5p.308
本学術集会での医療安全講習会講師の候補者選出を行った。さらに委員会企画として小児の鎮静に関するパネルディスカッションを行う予定である。
- 未来予想図委員会 主・山岸理事長、副・坂本理事……………資料 5p.313
総務、財務、学術、渉外の面から学会の現状から将来に向けた運営について継続的に検討している。学会版の教科書「小児・成育循環器病学」を改訂した。ご協力いただいた評

議員・会員の皆様に感謝する。小児循環器医療 DX ワーキンググループでは、関係各省庁と面談を重ねている。

9. 懇談事項

特になし

10. 閉会

15 時 50 分に山岸理事長の声掛けにより閉会となった。